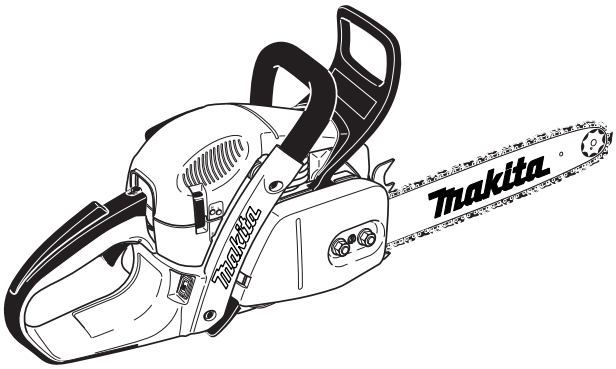
エンジンチェンソー
取 扱 説 明 書

モデル MEA5000G



目次

国内排出ガス自主規制について 2
シンボルマークについて 3
エンジン製品の安全上のご注意 4
エンジンチェンソーの安全上のご注意.....7
仕様.....9
各部の名称 10
使用準備 11
・ガイドバー、チェーン刃の取り付け方.....11
・チェーン刃の調整 12
運転.....13
・燃料とチェーンオイルの給油 13
・始動・停止.....14
・チェーンブレーキについて 15
切断作業 16
・基本的な作業.....17
・各種の切断作業例 17
点検と整備 19
・上刃および横刃の目立て 19
・デプスゲージの調整方法 20
・チェーンオイル吐出口の清掃 20
・ガイドバーの清掃 20
・スプロケットカバーの清掃 20
・エアフィルタの清掃と取り替え.....21
・燃料タンクフィルタの清掃と取り替え.....21
・マフラの清掃.....22
・シリンダ周りの清掃 22
・スタータ.....22
・スパークプラグの点検と整備 23
・キャブレタ（気化器）の調整 23
・寒冷時の運転.....24
格納方法 25

このたびは**エンジンチェンソー**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp/

シンボルマークについて

・ 製品および取扱説明書にシンボルマークを記載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

保護めがね、耳栓、保護帽などの保護具を着用してください。

混合燃料を入れてください。

通気の悪い場所では運転しないでください。

チェーンオイルを入れてください。

燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。

エンジンを停止してください。

燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。

ガイドバーの先端での切断はしないでください。

両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。

エンジン製品の安全上のご注意

- 引火、火災、けがなどの事故を未然に防ぐために、「エンジン製品の安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「エンジン製品の安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

注意文の ⚠警告・⚠注意・注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意・注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

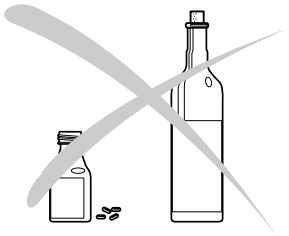
⚠注意 ： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。なお、⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ： 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

⚠警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
・ 機械の取り扱い知識が不充分な場合、事故の原因になります。

2. 安全装置をとりはずしたり改造は絶対にしないでください。
・ 事故やけがの原因になります。
3. 事故の原因になります。次のときは機械を使用しないでください。
・ 疲れているとき、身体が不調なとき。
・ 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。



4. 使用時は常に防振手袋、保護めがね、耳栓、保護帽(ヘルメット)、チェンソー用防護ズボンを着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
・ けがの原因になります。
また手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。
袖や裾の締りのよい服装をしてください。
・ 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
身体を冷やさないような服装で作業してください。

5. エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で、使用しないでください。
・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

6. 作業場は充分明るくしてください。また作業は視界のよい日中のみ行ってください。
・ 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。
7. 雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。
・ 転倒して、けがの原因になります。
8. 燃料の取り扱いには充分注意してくだい。
・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。
・ 体に異常を感じた場合は、直ちに専門医に相談してください。
9. 引火・火災の恐れがあります。
・ 燃料の持ち運びや保管、取り扱いには充分注意してください。
・ 燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

・ 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
・ 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも３ m 以上離れてください。
・ ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のある物の近くでは、使用しなでください。
・ マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。
10.始動時および使用中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。
・ 感電する恐れがあります。
11.使用中、機械の調子が悪かったり、異常音が発生したときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止し、お買い求めの販売店、または当社営業所に点検・修理をお申し付けください。
・ そのまま使用していると、けがの原因になります。

⚠注意

1. 損傷した部品がないか点検してください。
・ 使用前に損傷した部品がないか充分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
2. 調節キーやレンチなどは、必ず取り外してください。
・ 付けたままでは飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規則があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。
4. エンジンの始動時は、周囲の人や障害物に充分注意して必ず一人で操作してください。
・ 事故の原因になります。
5. エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
6. 使用を中断したり、移動するときは必ずエンジンを停止させてください。また、エンジンをかけたまま放置しないでください。
・ エンジンをかけたままですと、事故の原因になります。

7. 使用時およびエンジン停止直後は、マフラなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
・ やけどの原因になります。
8. スパークプラグ点検整備時、シリンダー内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグ取り付けネジ部にはスパークプラグを接触させないでください。
また、スパークプラグの金属部に触れながらスタータハンドルを引かないでください。
・ やけどの原因になり、また感電する恐れがあります。
9. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

10. 付属品および交換される部品は、必ず指定されたマキタ純正品をご使用ください。
・ マキタ純正部品以外のものを使用されますと、事故やけがの原因となる恐れがあります。
11. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をお勧めします。点検修理は、お買い求めの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと事故やけがの原因になります。

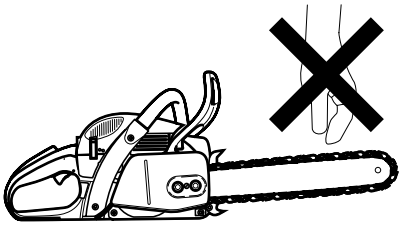
エンジンチェンソーの安全上のご注意

先にエンジン製品としての共通の注意事項を述べましたが、エンジンチェンソーとして、さらに次の注意事項を守ってください。

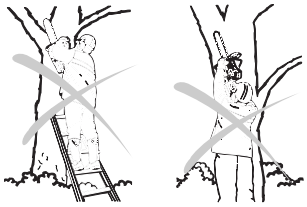
⚠警告

1. 本機は、木材や木製品の切断を目的とした機械です。この目的以外には、使用しないでください。
・ 目的以外で使用されますと、けがや事故の原因になります。
2. チェーン刃は、取扱説明書に従って正しく取り付け適正な張りに調整してください。
・ 誤った取り付け方をしたり、チェーンの張り方がゆるいとガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。
3. 使用時は、両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。
・ 機械がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。

4. 使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
・ けがの原因になります。



5. 使用時は、チェンソーの左側に立って使用してください。
・ 的確な操作ができず、事故の原因になります。
6. はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。また、肩の高さより高い位置で使用しないでください。
・ けがの原因になります。



7. ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
・ 機体がはね返り (キックバック)、けがの原因になります。

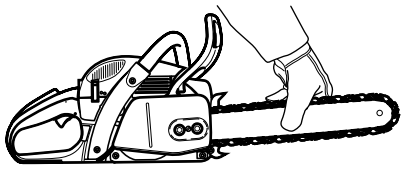
8. 誤って落としたり、ぶつけたときは、チェーン刃、ガイドバーや機械などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
・ 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
9. チェーン刃は、正しく目立てしてください。
・ 特にデプスゲージの寸法が大きくなりすぎますとチェーン刃が切れやすくなり、けがの原因になります。

［事業者の方へ］
樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

(関連法令)
労働安全衛生法第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規程第 10 条※
労働安全衛生規則第 36 条第 8 号※
※ただし、2020 年 7 月 30 日までは安全衛生特別教育規程は第 10 条の 2、労働安全衛生規則は第 36 条第 8 号および 8 号の 2 となります。

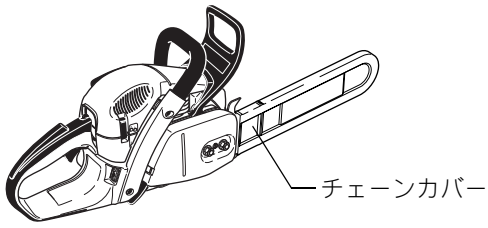
⚠注意

1. 行政機関では、チェンソーの 1 日の使用時間は 2 時間以内、連続操作時間は 10 分以内にするよう指導しています。作業時間の組み合わせを上手に計画してご使用ください。
2. 寒いときの休憩や昼食時には暖をとり、身体の保温に心がけてください。
3. チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
・ けがの原因になります。



4. 2 台以上で作業するときは、安全な距離をおいてください。
・ 事故の原因になります。
5. ガイドバー、チェーン刃の取り付け、チェーンオイルの自動給油量を調整するときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。また停止直後では高温となっているため、不用意に触れるとやけどの原因になります。

6. エンジンを始動させるとき、チェーン刃が材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
・ 機械が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。
7. 切断材料に石、釘などの異物がないことを確かめてください。
・ チェーン刃が石などに当たると、けがの原因になります。
8. 切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に充分注意してください。
・ けがの原因になります。
9. 切り落とし寸前や切断中に材料の重みでガイドバーが材料に挟み込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
・ ガイドバーが挟みつけられるとけがの原因になります。
10. 使用を中断したり、移動するときは、必ずエンジンを停止し、チェーン刃がむき出しにならないようガイドバーにカバーをしてください。
・ けがの原因になります。
11. 使用しないときは、ガイドバーにカバーをし、チェーン刃がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かないところに保管してください。
・ けがの原因になります。



仕様

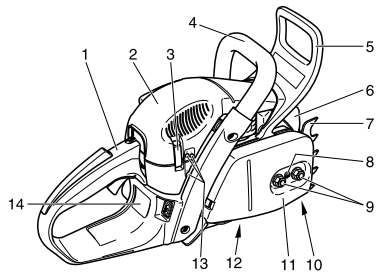
区分	項目	単位	MEA5000G
エンジン	形式	―	空冷 2 ストローク単シリンダ
	排気量	mL	50
	キャブレタ	―	ダイヤフラム式
	点火方式	―	フライホイルマグネット：電子点火方式
	スパークプラグ	―	NGK BPMR 7A
	始動方式	―	リコイルスタータ
	クラッチ	―	自動遠心式
燃料	混合比	―	25（無鉛ガソリン）：1（2 ストローク専用エンジンオイル（JASO-FC 適合品）） （もしくは 50（無鉛ガソリン）：1（2 ストローク専用エンジンオイル（JASO-FC 適合品）））
	タンク容量	L	0.47
チェーンオイル	使用オイル	―	マキタ純正チェーンオイル
	タンク容量	L	0.27
	給油方式	―	自動
切断部	チェーン刃タイプ	―	73LPX-64E
	チェーン刃ピッチ	インチ	3/8
	チェーン刃ゲージ	インチ	0.058
	チェーン刃 ドライブリンク数	枚	64
	ガイドバー長さ	mm	450
	ガイドバーゲージ	インチ	0.058
質量		kg	5.6
寸法（長さ×幅×高さ）		mm	420 × 235 × 290
振動 3 軸合成値	前ハンドル		4.3m/s^2
	後ハンドル		3.3m/s^2

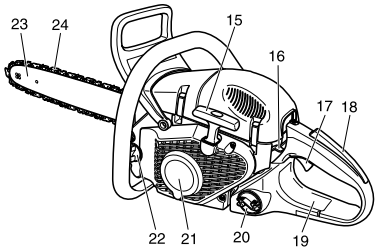
・ 振動 3 軸合成値は、ISO22867 規格に基づき測定。
・ 振動 3 軸合成値についての詳細は JEMA［(社) 日本電機工業会］ウェブサイト：(http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html) をご参照ください。

質量・寸法は、ガイドバー、チェーン刃をのぞいた値です。
改良のため、主要機能および形状等は変更することがありますのでご了承ください。

各部の名称

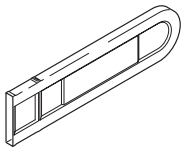
1. 後ハンドル
2. トップカバー
3. カバー留め具
4. 前ハンドル
5. 前ハンドガード
6. マフラー
7. スパイク
8. チェーン刃張り調整ネジ
9. スプロケットカバー固定ナット
10. チェーンキャッチャー
11. スプロケットカバー
12. オイル調整ネジ（底面）
13. アイドリング調整ネジ
14. 銘板
15. スタータハンドル
16. チョーク / スイッチレバー
17. スロットルレバー
18. スロットルロックレバー
19. 後ハンドガード
20. 燃料タンクキャップ
21. ファンハウジング
22. オイルタンクキャップ
23. ガイドバー
24. チェーン刃



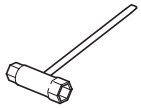


標準付属品

・ チェーンカバー

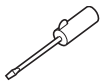


・ レンチ

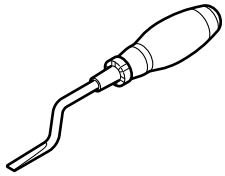


・ トルクスレンチ

・ ードライバ



・ シリンダフィンクリーナ



別販売品

・ チェーン刃
部品番号：A-57093

・ デプスゲージジョインタ
部品番号：D953100090

・ 丸ヤスリ 7/32”
部品番号：A-46028

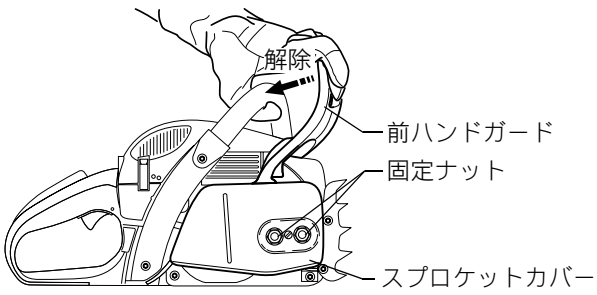
ガイドバー、チェーン刃の取り付け方

⚠注意

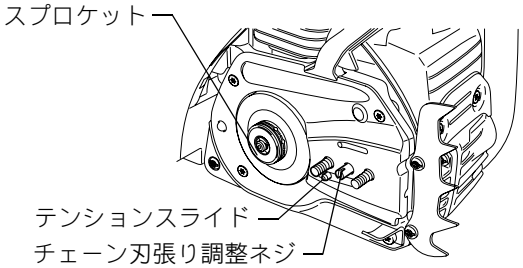
ガイドバー、チェーン刃の取り付け、取りはずしをするときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。
- また停止直後では、高温となっているため、不用意に触れると、やけどの原因になります。

チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
- けがの原因になります。

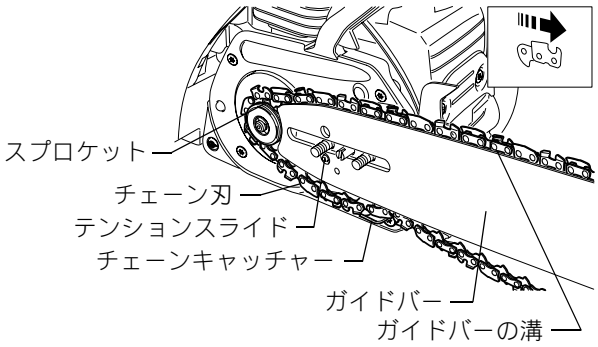
1. スプロケットカバーをはずす前に、チェーンブレーキが解除されているか確認してください。
   チェーンブレーキは、前ハンドガードを手前に引くと解除できます。



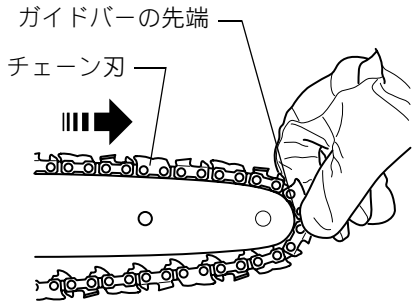
2. スプロケットカバー固定用のナットをレンチではずし、スプロケットカバーを本体からはずします。



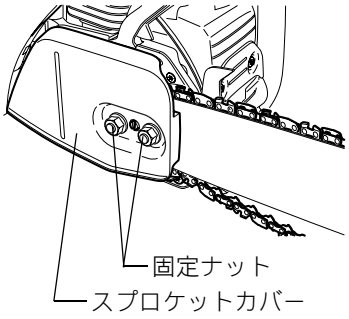
3. チェーン刃張り調整ネジを左（反時計方向）に回し、テンションスライドをスプロケット側に寄せてください。
4. ガイドバーを本体に取り付けてください。この時、ガイドバーの丸穴を、テンションスライドにはめ合わせてください。
5. 刃の向きに注意して、チェーン刃をスプロケットに掛け、スプロケット側から順にガイドバーの溝にチェーン刃を入れてください。



6. ガイドバー先端付近のチェーン刃を矢印方向に引っぱり、張ってください。



7. スプロケットカバーを取り付け、レンチで固定ナットを軽く締め付けてから1回転反時計方向に回してチェーン刃の調整をしてください。



チェーン刃の調整

⚠警告

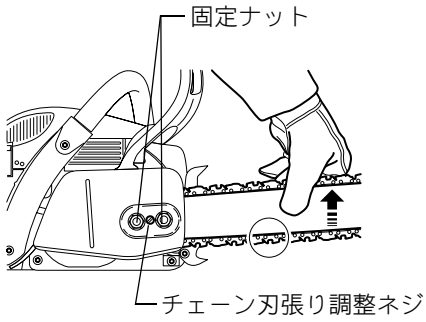
チェーン刃は、必ず適正な張りに調整してください。
・　張り方がゆるいと、ガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。

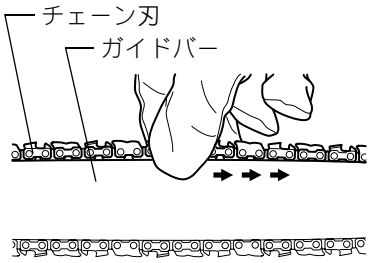
⚠注意

チェーン刃の調整をするときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・　エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。
・　また停止直後では、高温となっているため、不用意に触れると、やけどの原因になります。
チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
・　けがの原因になります。

調整をする前に、前ハンドガードを手前に引いてチェーンブレーキを解除してください。

1. スプロケットカバー固定用のナットをレンチで1回転反時計方向に回してください。
2. ガイドバーの先端を持ち上げた状態で、チェーン刃のカッタ底面がガイドバー下側に接触するまで、チェーン刃張り調整ネジを右（時計方向）へ回してください。
   調整ネジは右へ回すとチェーン刃の張りは強くなり、左へ回すとゆるくなります。
3. ガイドバーの先端を持ち上げた状態で、スプロケットカバー固定ナットを締め付けてください。
4. チェーン刃の張り具合を確認してください。チェーン刃を持って矢印の方向へ動かしたとき、ガイドバーの下側にチェーン刃のカッタ底面が接触し、軽く動けば適正です。
   チェーン刃が動かなかったり、動きが悪い場合は、張りすぎですので再度調整してください。





注

・ **チェーン刃の張りすぎは、ガイドバーの摩耗やチェーン刃破損の原因になりますので、必ず適正な張りに調整してください。**
・ **チェーン刃が新しいうちは伸びやすいので、チェーンの張りをこまめに調整してください。**
・ **ガイドバーは両面使用できます。ガイドバーのかたよった磨耗を防ぐため、新品のチェーン刃に取りかえるたびに、ガイドバーを裏返してご使用ください。**

燃料とチェーンオイルの給油

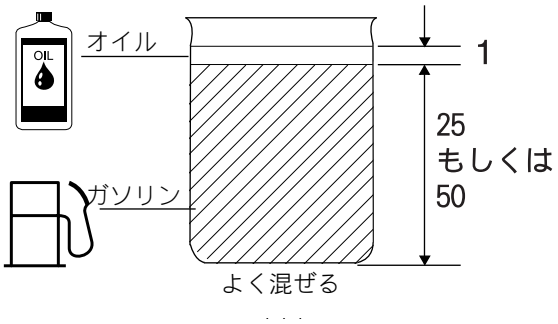
⚠警告

燃料の混合および給油をするときは、必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。
- 火気のない所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- 燃料給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

燃料の取り扱いには充分注意してください。
- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

1. 燃料について

- 本機に使用する燃料は、無鉛ガソリンと 2 ストローク専用エンジンオイル（JASO-FC 適合品）を 25：1 （もしくは 50：1）の割合で混ぜた混合ガソリンです。
- 無鉛ガソリンに混ぜるオイルの種類や混合する割合が異なりますと、エンジン不調の原因になりますので指定されたオイルを指定された割合で混合してください。

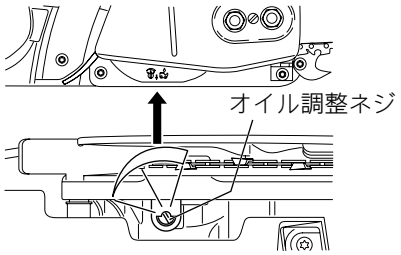


⚠注意

チェーンオイルの自動給油量を調整するときは、必ずエンジンを停止させてから調整してください。
- エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。

2. チェーンオイルについて

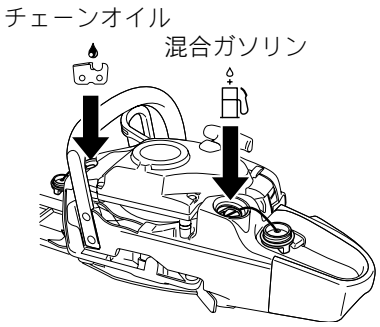
- チェーンオイルは、チェンソーを運転すると自動で給油されます。
- 給油量は、オイル調整ネジを回すことによって調整できます。給油量を増やすときはオイル調整ネジを時計方向に、給油量を減らすときはオイル調整ネジを反時計方向に回してください。
- チェーンオイルは、マキタ純正チェーンオイルまたは市販の専用チェーンオイルをお使いください。



3. 燃料、チェーンオイルの給油

- 燃料およびオイルタンクキャップが上になるように本機を置いて、それぞれのキャップをはずしてください。
- 入れすぎてこぼさないように注意して、混合ガソリン、チェーンオイルを給油してください。

給油が終りましたら、それぞれのタンクキャップを手でしっかり締めてください。



注

- 燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときは、ゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- 燃料とチェーンオイルの給油口を間違わないように注意してください。
- オイル調整ネジは無理に回すと部品が破損する恐れがあります。
- ガソリンだけでは絶対に運転しないでください。
- チェーンオイルの補給は、燃料を補給するたびに行ってください。
- 長期間保管して古くなった燃料は使用しないでください。故障の原因になります。
- 燃料タンク、オイルタンクにゴミなどの異物が入りますと、故障の原因になります。ゴミなどが入らないように気をつけてください。

始動・停止

⚠警告

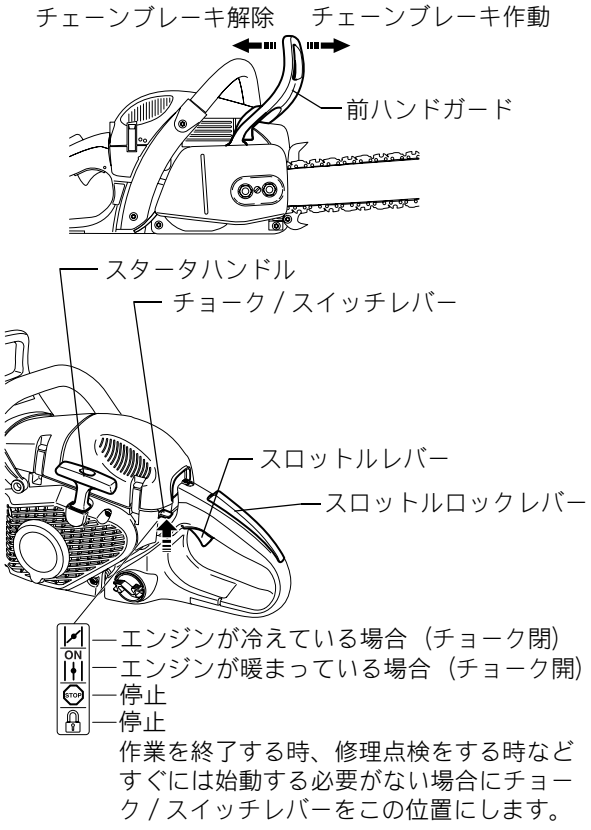
燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも 3m 以上離れてください。
・　引火・火災の原因になります。

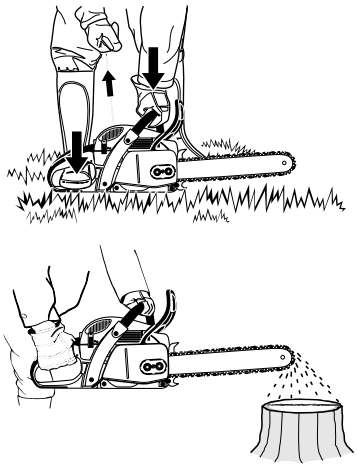
⚠注意

エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・　事故の原因になります。
エンジンを始動させるとき、チェーン刃が材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
・　機械が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。

1. エンジンが冷えている場合の始動

1. チェーンブレーキを作動状態にしてください。
2. チョーク/スイッチレバーを一番上に上げ の位置にしてください。この操作により、スロットルは少し引いた位置に固定されます。
3. チェンソーが動かないようにしっかり押さえ、スタータハンドルをゆっくり引き出します。
4. スタータハンドルに抵抗を感じたら勢いよく引き出し、最初の爆発音がするまで繰り返してください。
   (爆発音の後、エンジンが始動しなければ手順 6 へ、始動した時は手順 7 へ移ってください。)
5. 爆発音がしたらチョークレバーを中間の位置 ON に戻し、スタータハンドルを数回引いて始動させてください。
6. エンジンが始動しましたら、直ちにスロットルレバーを引いてスロットルの固定を解除し、チェーンブレーキを解除してください。
7. 2 ～ 3 分間スロットルレバーを引いたり、戻したりを繰り返して、暖機運転を行ってください。気温が低いときには、充分な暖機運転が必要です。
8. エンジンの回転が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。
9. 暖機運転がすみましたらチェーンオイルが吐出されているか確認してください。スロットルレバーを引き数秒間、高速回転してみます。
   チェーンオイルが飛散していれば正常に吐出されています。





2. エンジンが暖まっている場合の始動

1. チェーンブレーキを作動状態にしてください。
2. チョーク / スイッチレバーを一番上に上げ の位置にしたあとすぐに中間の位置 ON に戻してください。この操作により、スロットルは少し引いた位置に固定されます。
3. チェンソーが動かないようにしっかり押さえ、スタータハンドルを引いてエンジンを始動してください。２～３回引いても始動しない場合は、「エンジンが冷えている場合」の手順で始動してください。
4. エンジンが始動しましたら、直ちにスロットルレバーを引いてスロットルの固定を解除し、チェーンブレーキを解除してください。

注

- チョークレバーを の位置にしたままスタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けますと、燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。
- 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずし機械を逆さまにして、スタータハンドルをゆっくり数回引いて余分な燃料を出してください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。
- スタータハンドルを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。また、スタータハンドルは急に手放さず静かに戻してください。
- 無負荷高速運転（空ふかし）はエンジンの寿命を縮めますのでむやみにしないでください。

3. 停止

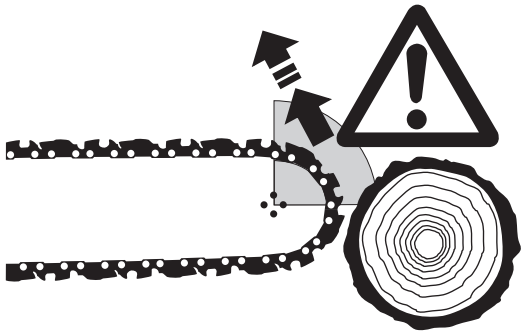
- エンジンを停止させるには、スロットルレバーを戻し、チョーク / スイッチレバーを STOP の位置まで押し下げます。

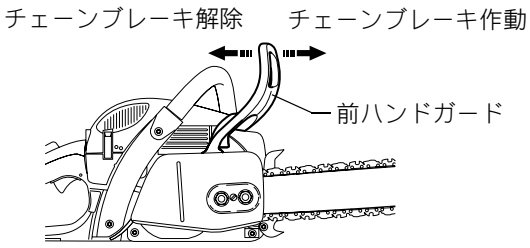
注

- チョーク / スイッチレバーは STOP の位置まで押し下げた後指をはなすとバネ力で ON 位置に戻ります。（エンジンは停止します。）
- 再度始動する時にはスタータハンドルを引けば始動できます。（チョーク / スイッチレバーを操作する必要はありません。）
- チョーク / スイッチレバーを の位置まで押し下げると、 位置で保持されエンジンは完全に停止し、スタータハンドルを引いても始動しません。

◎チェーンブレーキについて

- チェーンブレーキは、使用中にはね返り（キックバック）が生じたときの、危険を少なくするための装置です。このチェーンブレーキは、ガイドバーの先端で切断したり、ガイドバーの先端が枝などに触れた場合など強いはね返りが発生したときに自動的に作動し、チェーン刃を瞬時に停止させます。
- また前ハンドガードを前方へ倒しますとブレーキが作動します。
- チェーンブレーキは、前ハンドガードを手前に引くと解除できます。



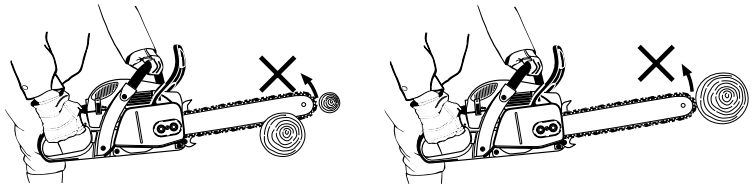


注

- チェーンブレーキは、安全にご使用していただくための重要な装置です。常に点検をしてください。ブレーキの作動が不確実なときは、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

⚠警告

使用時は、両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。
・　機体がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。
使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
・　けがの原因になります。
ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないよう作業してください。
・　機体がはね返り (キックバック)、けがの原因になります。



⚠注意

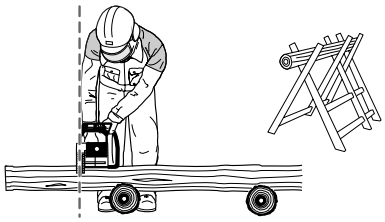
切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に十分注意してください。
・　けがの原因になります。
2 台以上で作業するときは、安全な距離をおいてください。
・　事故の原因になります。

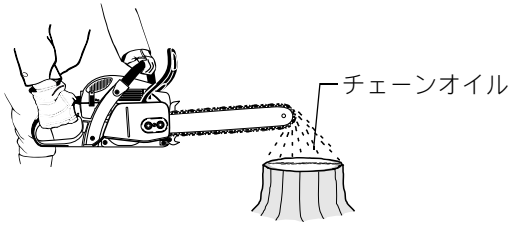
[事業者の方へ]
樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

(関連法令)
労働安全衛生法第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規程第 10 条※
労働安全衛生規則第 36 条第 8 号※
※ただし、2020 年 7 月 30 日までは安全衛生特別教育規程は第 10 条の 2、労働安全衛生規則は第 36 条第 8 号および 8 号の 2 となります。

◎基本的な作業

1. 回り止めやうまなどを用いて、木材が動かないように固定してください。
2. エンジンを始動させてください。
3. ハンドルを両手でしっかり握り、スロットルを引いて全速運転し、ガイドバーの先端からチェーンオイルが吐出しているか確認してください。
4. ガイドバーの中央部付近を木材に当てて、そのまま真下へ本機を押し付けて切断してください。
5. 切断が終りましたらスロットルを戻しエンジンを停止させてください。

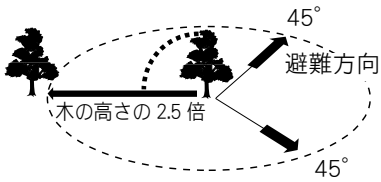




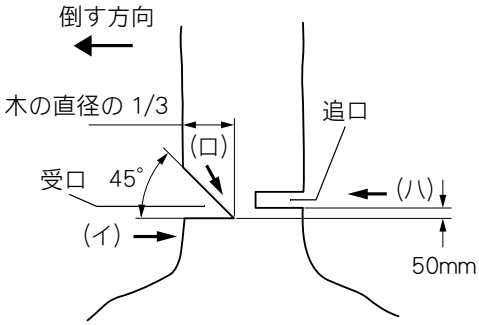
◎各種の切断作業例

1. 伐木作業（立ち木を倒す作業）

1. 倒す木の傾き、大きな枝の位置、風向きなどを考えて倒す方向、避難する方向を決めます。
2. 周囲の障害物を取り除き、足場の安全を確認します。倒す木が斜面にある場合は、必ず山側に安全な足場を確保してください。
3. 作業中は、木が倒れる範囲（作業領域）内に作業者以外の人や動物などを近づけないでください。
4. 図のように木を倒す方向に、直径の 1 /3 程度の切り込みを（イ）、（ロ）の順に入れて受口を作ってください。
5. 受口の水平部より約 50mm 上部に、受口の水平部と平行に追口を切り込んでください。（ハ）
6. 追口の切り込みが樹芯を越えますと木が倒れ始めます。
7. 木が所定の方向に倒れそうもない場合やチェーン刃、ガイドバーが挟まれたときは作業を中止し、追口にクサビを入れて倒れる方向を矯正したり、チェーン刃、ガイドバーが挟まれないようにしてください。

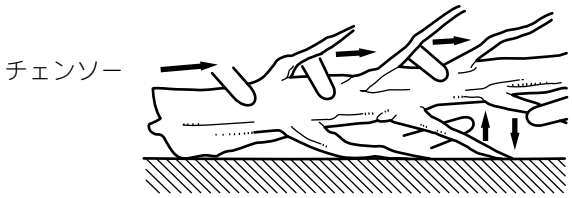


= 木が倒れる範囲（作業領域）



2. 枝払い作業

1. 倒した木の枝払いは、まず上部、側面の枝を一方向より切り落としてください。
2. 次に幹を支えている大きな枝を残し、地面側の枝を下側より切り落としてください。

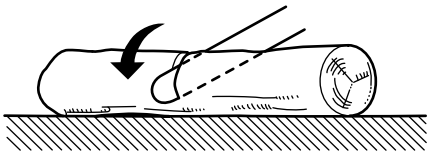


3. 造材作業（倒した木を切断する作業）

・ 丸太の置かれている状態により切断方法が異なりますので、次のように切断してください。

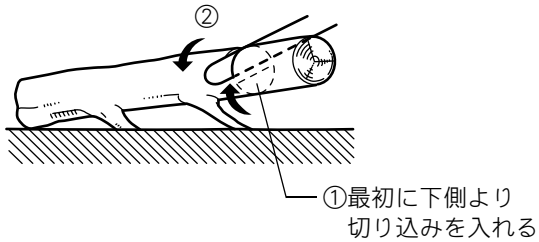
1）丸太全体が地面に接している場合

1. 丸太の上部から切り始め、そのまま真っ直ぐに切り下げてください。
2. 切り終わりにチェーン刃が地面に触れないよう注意してください。



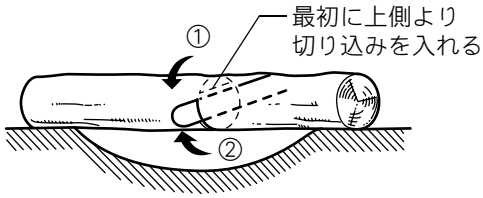
2）丸太の一端が支持されている場合

1. 最初に丸太の下側より直径の 1/3 まで切り込んでください。
2. 次に下側から入れた切り込みと一致するように位置を合せて上部から切断してください。



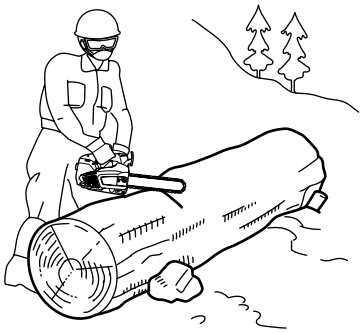
3）丸太の両端が支持されている場合

1. 最初に丸太の上部より直径の 1/3 まで切り込んでください。
2. 次に上部から入れた切り込みと一致するように位置を合せて下側から切断してください。



4）斜面で丸太を切断する場合

1. 最初に丸太がころがって落ちないようにクサビや杭などを用いて丸太を支えてください。
2. 次に山側に立って、1) ～ 3) の内の適した方法で作業してください。



⚠注意

点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
・　停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

注

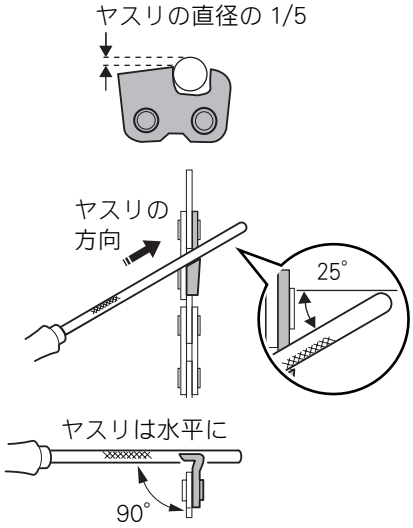
・ 点検整備するときは、機械の汚れを落とし、ゴミやほこりのかからないきれいな場所で行ってください。

上刃および横刃の目立て

⚠警告

チェーン刃は正しく目立てしてください。
・　特にデプスゲージ寸法が大きくなりすぎますと、チェーン刃が切断しやすくなり、けがの原因になります。

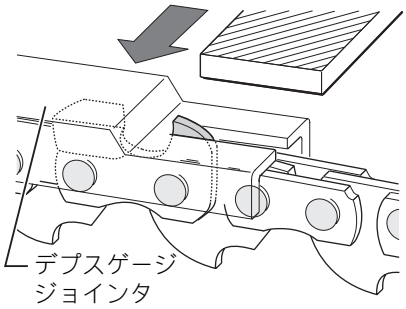
・ ガイドバーに対して丸ヤスリを 25°傾け、丸ヤスリの直径の 1/5 が上刃より出るようにチェーン刃に当ててください。
・ 丸ヤスリの水平を保って、押すときだけヤスリをかけ、手前に引くときは刃部にヤスリを当てないようにして、上刃および横刃の目立てをしてください。



デプスゲージの調整方法

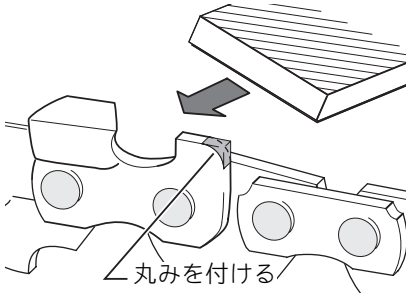
・ デプスゲージはチェーン刃の切り込みしろを適正（0.64mm）に保つためのものです。

1. 別販売品のデプスゲージジョインタを図のようにセットし、溝から出た部分を平ヤスリで削り落とします。



2. デプスゲージの角に丸みを付けてください。

3. デプスゲージの調整が終わりましたら、オイルに浸して切り粉を洗い落としてください。

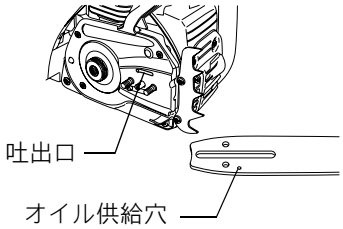


注

・ 刃部の目立てには、外径が 5.5 mm （呼び 7/32”）の目立て専用丸ヤスリを使用してください。

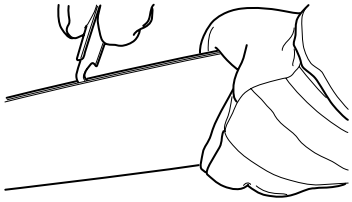
チェーンオイル吐出口の清掃

・ チェーンオイル吐出口、ガイドバーのオイル供給穴は機会あるごとに清掃してください。



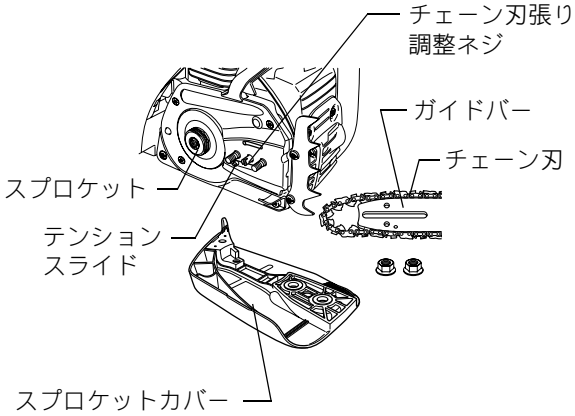
ガイドバーの清掃

・ ご使用中に、切り屑がガイドバーにつまることがあります。
・ 切り屑がガイドバーの溝につまりますと、チェーンオイルがチェーン刃全体に行き渡らなくなります。チェーン刃を目立てや交換するときに、ガイドバーの溝に入った切り屑を除去してください。



スプロケットカバーの清掃

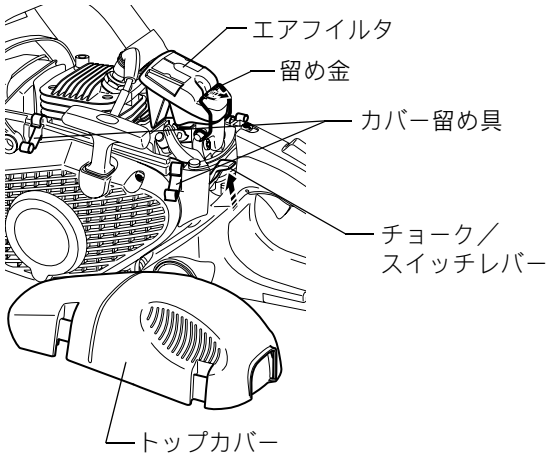
・ スプロケットカバーを取りはずし、中にたまった木屑等を除去し、クラッチ、ブレーキバンドの周辺をブラシなどで清掃してください。

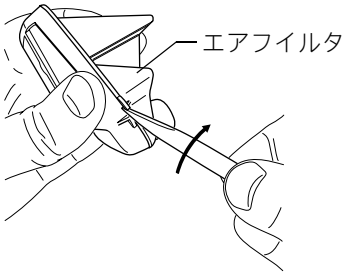


エアフィルタの清掃と取り替え

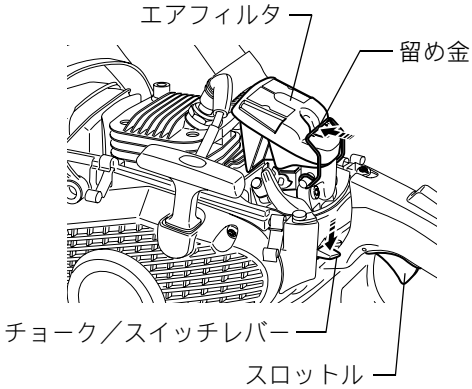
・ フィルタが目づまりするとエンジン不調の原因になります。作業終了後には、次の手順で清掃してください。

1. 3ヶ所のカバー留め具をレンチではずし、トップカバーを取りはずします。
2. キャブレタ内にゴミなどが入らないように、チョーク / スイッチレバーを上（チョーク閉の位置）に引き上げておきます。
3. エアフィルタを留めている留め金を、レンチまたは指で矢印方向に倒してはずし、エアフィルタを上に引き抜きます。取りはずしましたら、ほこりなどがキャブレタに入らないように、きれいな布等でキャブレタ入り口をおおってください。
4. 図のように、ドライバでこじて、エアフィルタの上下を分離します。
5. エアフィルタは軽く叩くかエアコンプレッサを使用してゴミやほこりを内側から吹き落としてください。（目詰まりの原因となりますので、ブラシは使用しないでください。）
   特に汚れがひどいときは、ぬるま湯と洗剤でよく洗い、充分乾かしてから使用してください。





6. フィルタを十分乾燥後、作業環境に適したフィルタ上下をはめ合わせ組み付けてください。
7. 清掃が終わりましたら、エアフィルタを元の所に差し込み、留め金で固定します。チョーク / スイッチレバーを下いっぱいに引き下げ、スロットルを一度引き、スロットルのロックを解除します。トップカバーをもとに戻し、3ヶ所のカバー留め具で取り付けてください。



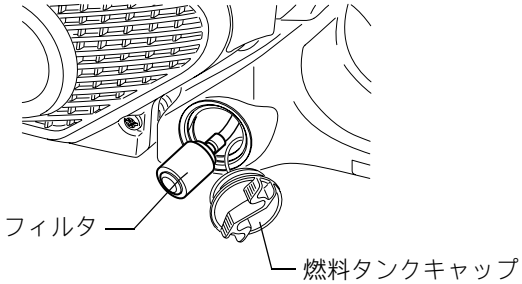
注

・ フィルタがぼろぼろになったり、破損している場合は、ただちに新品と交換してください。
エンジン破損の原因になります。

燃料タンクフィルタの清掃と取り替え

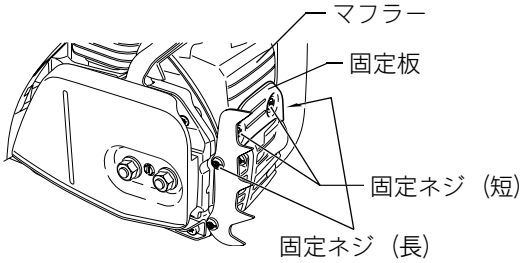
燃料タンクフィルタがつまるとエンジン不調やエンジン故障の原因になります。定期的に点検してください。

1. 燃料タンクキャップをはずしてガソリンを抜いてください。
2. 次に針金などを使ってフィルタを燃料注入口から引き出し、ガソリンでよく洗ってください。
3. 汚れがひどいときは、燃料管からフィルタを引き抜いて新品と交換してください。



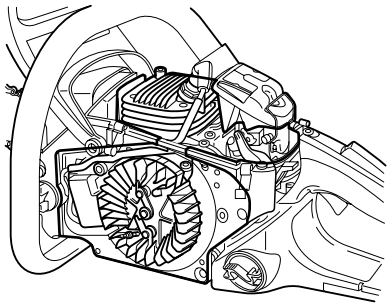
マフラの清掃

- 長時間運転しますと、シリンダー排気孔、マフラの入口内部、出口にカーボンが付着し、出力低下の原因になります。
- 時々清掃してください。マフラを取りはずすには、はじめに固定ネジ（長）をはずし、固定ネジ（短）をはずします。
- シリンダー排気孔を清掃するときは、ピストンやシリンダーに傷をつけないように、またクランクケース内にカーボンが入らないように特に注意してください。
- 清掃後は、逆の順に組み付け、それぞれ固定ネジをしっかりと締め付けてください。

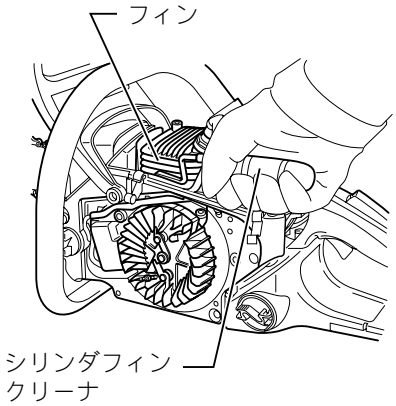


シリンダ周りの清掃

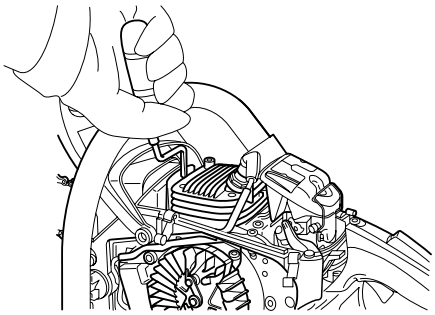
- 長時間運転しますとシリンダ周りに切り屑がたまり、オーバーヒートの原因となります。付属のシリンダフィンクリーナを用いてフィンのすき間を清掃してください。



1. トップカバー及びファンハウジングを取りはずしてください。
2. ブラシやエアブローを用いてシリンダ周りを清掃してください。
3. シリンダフィンクリーナを用いてシリンダフィンのすき間、シリンダと周辺部品との間にたまった切り屑を除去してください。



- 目を保護するためエアブローを用いる際には保護メガネを着用してください。
- 電気回路やイグニッションコードを傷つけないように注意してください。



スタータ

⚠注意

大変危険ですので、スタータを分解しないでください。

- 修理の際はお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

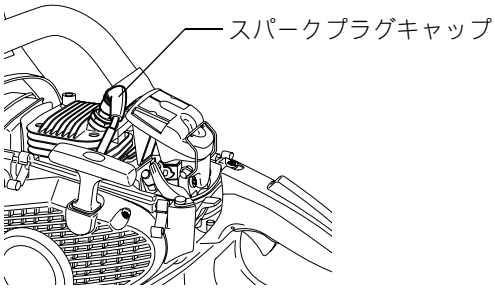
スパークプラグの点検と整備

⚠警告

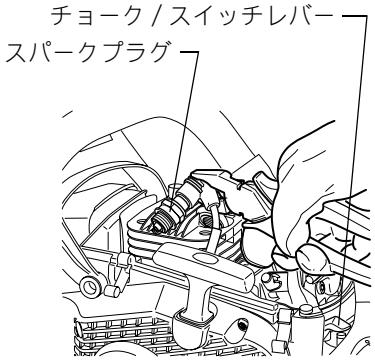
シリンダー内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグの取り付けネジ部には接触させないでください。
・ やけどの原因になります。
スパークプラブの金属部に触れながら、スタータハンドルを引かないでください。
・ 感電する恐れがあります。

点検

1. トップカバーをはずし、プラグキャップをはずして、スパークプラグをはずします。

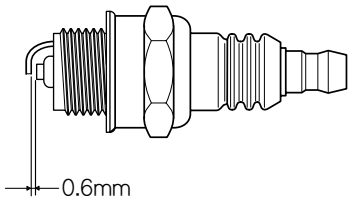


プラグキャップにスパークプラグを差し、スパークプラグをプラグ取り付け穴より離れた金属部に接触させます。
2. チョーク / スイッチレバーを ON の位置にし、スタータハンドルを引きます。正常な場合は点火火花がでます。



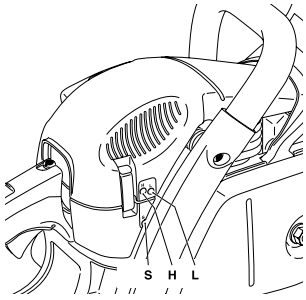
整備

・ スパークプラグは指定のものをご使用ください。
  1. プラグキャップをはずし、スパークプラグをはずしてください。
  2. 電極の隙間が 0.6 mm になっているか確認してください。もし広がりすぎたり狭すぎる場合は調整してください。
  3. カーボンが溜まったり、汚れている場合はガソリンで洗い乾かしてから取り付けてください。また摩耗したり、焦げているものは新品と交換してください。



キャブレタ（気化器）の調整

・ キャブレタは出荷時に燃料が最適に供給されるように調整してありますから、調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、当社営業所にお申し付けください。
・ アイドリング時チェーン刃が回転するときは、チェーン刃が回らないようアイドリング調整を行ってください。
・ また、アイドリング時にエンジンが停止してしまうときは、回転が安定するようにアイドリング調整を行ってください。
・ 調整は図のアイドリング調整ネジ（S）を回してください。調整ネジは、右へ回すと回転が上がり、左へ回すと回転が下がります。



寒冷時の運転

・ 冬期など高湿で気温が低いときは、キャブレタの凍結を防ぐため、寒冷時の設定に切り替えることができます。（工場出荷時は常温状態の設定です。）
・ トップカバーを取りはずしてください。
・ 以下の外気温を目安に、インサートの挿入方向を切り替えてください。

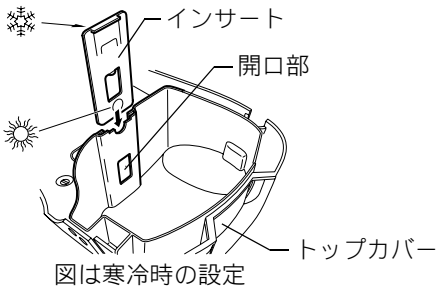
5 ℃以上のとき…シンボルを上側に挿入（開口部閉じる）

5 ℃未満のとき…シンボルを上側に挿入（開口したまま）

・ 設定が終わりましたら、トップカバーを戻してください。

シンボルが上側 - 常温時

シンボルが上側 - 寒冷時



図は寒冷時の設定

注

・ 外気温が 5 ℃以上のときは、必ず常温時の設定に戻してください。シリンダやピストンの損傷の原因となります。

格納方法

⚠警告

燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・　停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

⚠注意

ガイドバーにカバーをし、チェーン刃がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かないところに保管してください。
・　けがの原因になります。

・　次の手順で燃料タンクから燃料を抜き、格納してください。
1. 燃料タンクキャップをはずして、燃料を抜いてください。
2. 燃料タンクキャップを締め、エンジンが停止するまで運転させてください。
3. スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
4. スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせスパークプラグを取り付けてください。

注

・　**長時間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタなどから燃料を全部抜き、オイルタンクからチェーンオイルを全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。**

メモ

メモ

Form : 995 707 981
MEA5000G_MJ_2005
IWT

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711 （代表）